

<p>るとともに、文字の構成・字義をあわせて指導するなど、指導をさらに深めていきたい。</p> <p>また、送り仮名や仮名遣いについては、とりあげて指導したり、個別指導をしたりして完全に理解させるようにしたい。</p>	
観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>③ 語句を読む</p> <p>一、対語・類語がわかる</p> <p>対語の問題が二つとりあげられているが、正答率はどちらも同じくらいであった。(1が62%、2が64%である。)</p> <p>「結果」に対して「難解」「分散」といった、言葉の意味を考えないで、同じ漢字が入っている熟語を記入した誤答がみられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 類語・反対語・対立語などの意味とその違いを明確にわからせる必要があろう。原因⇔結果、集合⇔解散などは、6年生としては基本的な事例なので、徹底させたい。また、文字の構成や語源から発展的に指導したり、辞典で調べさせたりするような手だても工夫したい。
<p>二、慣用語句がわかる</p> <p>下記のように観念的にとらえている誤答もみられる。</p> <p>1 根も葉もない → 裸と同じこと。植物が枯れてしまうこと。</p> <p>2 耳にたこかできる → 耳にできものができてしまうこと。</p> <p>1は62%、2は80%と、ともに正答率が高く、児童に日常使われている慣用語句であるといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成句・慣用語句は、生活風習や日本的なものの考え方を反映しており、日常生活で使用されているので、正答率が高かったものと思う。語句のもつ特殊な語感が、さらに表現面で生かされるよう指導していきたい。
<p>三、文脈にそって、語句の意味がわかる</p> <p>1 「いそむ」をおじさんにかけて「いそがしい」としたもののや、底ぬけに明るかったにかけて「ほほえむ」としたものが目立つ。</p> <p>2 「あらわに」は、その言葉の語形にとらわれて、「あらあらしく」としたものがあった。1(70%)にくらべて、2(61%)の方が正答率が低いのは、語句の意味だけでなく、文章がとらえられなかったからと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導要領の語句に関する指導としては、「語いの拡充」「語句の知識」「辞書の利用」「語への感覚」がある。ここでは、指示する語句、接続する語句、修飾する語句など、語句の役割や種類について理解させる指導が重要であろう。